

## 基本目標2 | 連続性のある学びの実現

### 目指す姿

幼稚園・保育園・認定こども園から小学校、中学校までの円滑なつながりを実現させるため、系統性・連続性のある一貫した教育を実施し、児童生徒のウェルビーイングを高め、いくとともに、安心して学ぶことができる学校づくりを推進します。

### 基本目標に対する指標

	指標名	基準値	目標値
主要指標	小中一貫教育を意識した取り組みを行っている学校の割合	12.6%	100%
	幼保こ小の接続段階がフェーズ3 <sup>40</sup> の実施	0校	42校
参考指標	学校が好きと回答した小学1年生の割合	91%	92%

## 施策4 小中一貫教育の推進

### 現状と課題

小・中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育の9年間を見通した教育を進めることで、系統性・連続性のある教育活動を実現していく「小中一貫教育<sup>41</sup>の推進」が求められています。

また、「小中ギャップ<sup>42</sup>」と呼ばれる小学校から中学校への進学時に生じやすい学習面や生活面でのつまずきなど、様々な教育課題の緩和・解消にも効果が期待されています。

誰一人取り残さない教育を推進するために、これまで以上に小中学校の連携を深めていきます。今後は、小中学校間の人事交流を活性化することも視野に入れつつ、小中一貫教育の取組をさらに推進していきます（p.71参照）。

### 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 市内全校で小中一貫教育を推進。義務教育9年間を通して系統性、連続性のある教育活動を実施

<sup>40</sup> フェーズ3：幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指すプロセスのうち「実施・検証」にあたる段階のこと。フェーズ1「基盤づくり」、フェーズ2「検討・開発」に続くプロセスであり、フェーズ4「改善・発展」につながっていくものとされる（p.71参照）

<sup>41</sup> 小中一貫教育：小学校と中学校を連続した一つの期間として捉え、9年間を通して一貫した教育を行うもの

<sup>42</sup> 小中ギャップ：小学校から中学校への進学時に生じる学習・生活・人間関係等の環境の違いによって、児童生徒が不適応を感じる現象。具体的には、不登校やいじめの増加、学習意欲の低下等が問題視されている

4-1	中学校区による連携強化	指導課
<p>小中一貫教育の本格導入に向けた準備として、令和9年度までは市内3つの中学校区・合計8つの学校を協力校に位置付け、9年間を見通した学びの実現に向けて、先行して取り組む体制を構築します。協力校の小中合同の具体的取り組みや実践等を全学区に展開できるよう、各中学校区に担当の指導主事を派遣します(KMGs<sup>43</sup>、p.35参照)。</p>		
指標	基準値	目標値
伴走する職員の派遣率	95.2%	100%

4-2	義務教育学校 <sup>44</sup> の設置	教育政策課 教育施設課
<p>・義務教育9年間を見通した学びの連続性や系統性を強化した小中一貫教育の実践を全市的に推進するに当たり、小学校施設の老朽化への対応が急務となっている柏中学校区（柏中学校、柏第一小学校、旭東小学校）において、柏市初の義務教育学校として令和12年度に開校することを目指し、関係者との協議や施設整備を進めます。</p> <p>また、義務教育学校の整備に当たっては、駅周辺の多様な機能が集約した地区に立地する学校であることから、災害時の避難所機能の強化を図る観点など、地域の防災力向上と強靱な都市構造の形成に資する視点も踏まえた学校整備を推進します。</p> <p>・その他の中学校区においても、一定の条件（地域との協議、児童生徒数に見合う敷地や施設の確保、財政面等）が整う場合には、施設一体型の義務教育学校の設置を検討します。</p>		
指標	基準値	目標値
事業の周知・説明回数	4回	年4回

4-3	小中ギャップの緩和	児童生徒課
<p>義務教育学校の設置や中学校区での連携を進めることで、教職員間の引き継ぎをより円滑にし、小中ギャップの緩和を図ります。</p>		
指標	基準値	目標値
円滑な引継ぎができていない学校の割合	100%	100%



<sup>43</sup> KMGs：各中学校区で設定する共育目標や目指す児童生徒像の実現のために、学校生活における様々な課題を共有し、小中や小の小の連携を通じて、共通理解を深め、義務教育9年間を見通した系統的な取組。柏市未来につなぐ魅力ある学校づくりの頭文字をとった言葉

<sup>44</sup> 義務教育学校：初等教育（小学校等における教育）と前期中等教育（中学校等における教育）までの義務教育を一貫して行う学校

## K M G 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり（KMGs）

### ○ KMGs とは

柏市の学校教育が目指す子ども像は「自他の対話を大切にしながら学び続けるかしわっ子～よりよい自分、よりよい“かしわ”をめざして～」です。これを受けて、市内各中学校区で設定する目指す児童生徒像の実現のために、学校生活における様々な課題を共有し、小中の連携や小小の連携を通じて、義務教育9年間を見通し、系統的な教育活動を行っていく取組がKMGsです。

令和6年度から市内3中学校区を協力校に指定し、先行的な取組を実施しています。令和9年度以降、市内全中学校区において全面的に実施していきます。



3校の職員が  
対面での共有



場所が離れていても  
オンラインで共有



6年生が中学校の  
図書室を見学



小学生が中学校の音楽集  
会リハーサルを参観

### ○ 各部会での取組

中学校区ごとに小中の教員合同で課題に応じた部会を立ち上げています（教育課程、学力向上、特別支援、情報教育等）。部会ごとに対面やオンラインで情報を共有しながら、児童生徒に身に付けさせたい資質能力やそれに向けた取組を検討しています。

## 施策5 幼保こ小連携の推進

### 現状と課題

小学校から中学校への接続と同様に、幼稚園・保育園・認定こども園から小学校に進学する際の接続をスムーズに行うために、幼保こ小が緊密な連携体制をとることも重要です。

また、幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要となるため、特に「架け橋期」（5歳児から小学校1年生の2年間）における教育内容やカリキュラムを幼保こ小が連携・協働しながら充実させていくことが重要です（p.71参照）。

### 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針での方向性

- 小1プロブレム<sup>45</sup>や小中ギャップ、心身発達の早期化に対応

### 取組

5-1	幼保こ小協働による架け橋期教育の充実	教育研究所
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柏市版架け橋期カリキュラム共通シート<sup>46</sup>を活用し、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校がともに子どもの育ちや学びを見通したり、振り返ったりしながら日々の教育活動を評価することに取り組みます。</li> <li>・ 架け橋期の子どもたちのよりよい成長に向け、柏市幼保こ小連絡協議会<sup>47</sup>による連携体制を強化し、各園と各校との交流や教職員の連携活動等を推進します。</li> </ul>		
指標	基準値	目標値
小学校が柏市版架け橋期カリキュラム共通シートを活用して園との連携を行った最低回数	1回	年2回



写真7 5歳児と小学校1年生の交流活動の様子

<sup>45</sup> 小1プロブレム：小学校入学当初、幼稚園・保育園・認定こども園との環境の違いから子どもに生じる問題のこと。落ち着きのない行動や集団行動の乱れ等が見られる

<sup>46</sup> 柏市版架け橋期カリキュラム共通シート：柏市における架け橋期カリキュラムの実施を補助するために用いる共通シートのこと。幼保こ小が協働して、育みたい子どもの姿や資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの

<sup>47</sup> 柏市幼保こ小連絡協議会：幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の相互理解と連携の充実を図るための組織。各地区（10地区）から幼稚園、保育園、認定こども園と小学校の関係者が参加している。協議会全体としての協議、情報収集、啓発活動のほか、地区別の連絡協議会を開催し、各小学校区における交流活動を推進している